

# 四日市市常磐地区・地区懇談会調査について

(平成18年度人権文化担い手塾モデル地域補助事業)

07/1/25 NPO法人市民社会研究所

## 1 事業内容

### (1) テーマ

四日市市常磐地区「地区懇談会」の実態調査を通じた、地域レベルにおける、住民主体の人権教育プログラム・運営マニュアルの研究

### (2) 実施方法

7箇所の「地区懇談会」(9~10月)に参加・調査

ア) 企画者へのインタビュー(住民主体で行う懇談会についての意見聴取)

イ) 運営実態の観察

- ・ 使用する資料の使われ方、効果
- ・ 司会者の役割
- ・ 住民同士の話し合いの内容

ウ) 参加者へのアンケート

の集計・分析(11月)

に基づいた意見交換会等の実施

ア) 常磐地区人権・同和推進協議会(12月15日)

イ) 常磐地区・地区懇談会反省会(1月25日)

## 2 調査結果

(1) インタビュー・運営実態調査まとめ(別紙)

(2) 参加者アンケートまとめ(別紙)

## 3 調査結果から(ポイント)

(1) 「住民主体」とサポーターの必要性

- ・ 住民同士で人権について話し合うことは、参加者に一定の充足感を与えている。
- ・ 住民主体で学習会を行うといっても、資料提供、企画内容の提案や相談等、適切な行政のサポートがきわめて重要。
- ・ 住民主体の答えのない話し合いといっても、人権の専門性の高い助言者が不可欠。そうでないと、何のために話し合っているのかわからなくなる。住民の中の「専門家」の発見・養成

(2) 司会者の重要性とトレーニングの必要性

司会者の役割がきわめて大きい。現状では、司会者が参加者の意見を引き出したり、出た意見から内容を深めたりする力量が不十分であり、ファシリテーターとしての訓練の場が必要。

(3) 人権についての知識・アプローチ

- ・ 人権はよくわからないという意識がかなりある。
- ・ さまざまな分野の人権の基礎にある、人権の基礎概念について、理解が不足している。
- ・ 人権の知識はあっても、これに反する方向の発言等に対しても(人間関係を維持しようとするためか)、すべてを肯定的に受け止めたまま、次の展開ができない場面がみられた。
- ・ 人権の知識はあっても、自分の得意分野以外では差別的な発言を平気でしていることがあり、それに自分でも気が付かない場面がみられた。
- ・ 人権は自分以外の特別な人のためという意識が根強く、「自分自身が大切にされること」という意識は比較的弱いようにみられた。
- ・ 自分の地域に根差していることは関心が高い。地域に根ざしたテーマから入ることは重要。